

令和元年6月13日現在

機関番号：24501
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2016～2018
 課題番号：16K02498
 研究課題名(和文) ジェイムズとハーンの<海を越える語り>：アメリカ帝国主義とトランスナショナリティ

研究課題名(英文) "Umi o Koeru Katari (Transoceanic Narrative)" in Henry James and Lafcadio Hearn: American Imperialism and Transnationality

研究代表者
 難波江 仁美 (NABAE, Hitomi)
 神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：30244677
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ヘンリー・ジェイムズ(1843-1916)とラフカディオ・ハーン(1850-1904)の語りの特徴をアメリカ帝国主義という歴史的な文脈から検証した。彼らは共に大西洋あるいは太平洋の対岸からアメリカに発信し続けた国籍離脱作家である。変容しグローバル化するアメリカ帝国主義の時代という歴史的な文脈に於いて、彼らの語りを<海を越える語り>と呼び、言語文化異なる読者との共感を創出する語りの可能性を探った。両作家について本を仕上げる言葉でできなかったが、研究発表を重ね研究論文を執筆した。ジェイムズについては「幽霊」の越境性を、ハーンについては翻訳を介して異文化をいかに寓意的に伝達するかを論じた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
 本研究では、個別作家研究で十分に論じることができなかった歴史的文化的な文脈を視座に入れ、グローバル化する複数文化・言語圏を繋ぐ<海を越える語り>という概念を想定し、大西洋を渡ったジェイムズと、太平洋を渡ったハーンにその祖型を探った。特に彼らの幽霊談に注目する。そこに海を越えるトランスナショナリティを寓意化する語りの作用があるからである。その前提を踏まえ、ジェイムズおよびハーンについてそれぞれの語りについて検証、論文を発表した。東西交流の要となり、グローバル化の黎明期である二十世紀転換期を振り返り、二人を歴史的枠組みで捉え直す本研究の視点は意義深く、さらなる研究の必要が期待できる。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to examine the works by Henry James (1843-1916) and Lafcadio Hearn (1850-1904) and define their narratives as "umi o koeru katari" or "transoceanic narrative." I propose that, as both writers pursued their literary careers overseas in the radically transforming era of American Imperialism at the turn of the 20th century, they had to craft their narratives to convey their foreign experiences to American readers. These had to be exotic and interesting, but also sufficiently enlightening to alert readers to issues of national, racial, and sexual identities. I focus on their use of ghost stories, indigenous folktales and travelogues for the definition of "transoceanic narrative." Although I did not complete a book in this period, I was able to attend international conferences and compose papers to explore the allegorical characteristics of their narratives.

研究分野：アメリカ文学・比較文学

キーワード：米文学 ヘンリー・ジェイムズ ラフカディオ・ハーン 語り モダニズム グローバリズム 帝国主義
トラベル

1. 研究開始当初の背景

研究代表者はこれまで、19世紀末から20世紀初めのリアリズムからモダニズムの時代に焦点を当て、ヘンリー・ジェームズ、イーディス・ウォートン、ラフカディオ・ハーン、モダニズム詩人等について研究を続けてきた。本研究では、個別作家研究で十分に論じることができなかった歴史的・文化的文脈を視座に入れ、グローバル化する複数文化・言語圏を繋ぐ「海を越える語り」という概念を想定し、大西洋を渡ったジェームズと、太平洋を渡ったハーンにその祖型を探る。特に彼らの幽霊談に注目する。そこに海を越えるトランスナショナリティを寓意化する語りの作用があると考えらるからである。2016年はジェームズ没後100年、ハーンの日本国籍取得120年でもあり、東西交流の要となる二十世紀転換期を振り返る時期であるという点からも、二人を歴史的枠組みで捉え直す本研究に意義があると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ヘンリー・ジェームズとラフカディオ・ハーンにおける語りの特徴をアメリカ帝国主義という歴史的・文化的文脈において検証することである。彼らは生い立ちも作風も異なるが、若い時代をアメリカで過ごし、大西洋あるいは太平洋の対岸から異文化異言語体験を作品にしてアメリカの出版社へ送った。共に国籍離脱者としてアメリカの読者に向かって語りかけた同時代作家である。しかし、この二人を19世紀末という同じ歴史的俎上で論じた先行研究はなく、その点において本研究は独自である。ジェームズもハーンもヨーロッパあるいは日本を語りながらその言説にアメリカの姿を投影させざるを得なかった。本研究では、彼らの語りを「海を越える語り」と呼び、その特徴を海の彼方の見知らぬ者との共感を創出するための寓意性とトランスナショナリティに探り、グローバル化時代の要請する語りの可能性を明らかにする。

3. 研究の方法

3年間の研究期間に、これまでの個別作家研究を土台として時代背景を考察し、ジェームズとハーンを同じ時代という俎上で論じ、二人に共通する米国帝国主義時代における語りの検証を目的とする。

19世紀末資本主義的覇権国家米国の周辺から本国へ向かって発せられた彼らの語りを、本研究では「海を越える語り」と呼び、その特徴を資料調査等によって「海を渡る語り」、すなわち他者との共感を創出する語りとして理論化を目指す。これは、今日のグローバル化社会に資する文学のありようを開くことにもなるであろう。

研究対象は、米西・米比戦争、ルーズベルト大統領時代、また日清戦争から日露戦争、すなわち1890年から1904年頃に執筆された作品である。これまでの研究から、幽霊談の持つ寓意性とトランスナショナリティが両者をつなぐ語りの特徴だと想定できる。一次資料研究によってそれらの具体例を調査し、発表し、英文論文で国内外に発信、フィードバックを参考にさらに研究を進める。

最終的には、ジェームズとハーンをめぐるアメリカ帝国主義時代の言説を調査、分析し、グローバル社会を繋ぐ語り「海をわたる語り」のモデル化を目指す。研究を円滑に進める為に次の4段階で研究を進めた。アメリカの環大西洋地域覇権拡大時期(1890～1904)における両作家の作品調査分析。同時期の歴史的・政治的言説(大統領の演説、新聞記事)の検証。同時期の作家、知識人による反帝国主義同盟についての調査。特にマーク・トウェインやウィリアム・ジェームズに注目。からをふまえてハーンとジェームズとの共通点の検証、および仮説「海を越える語り」の特徴と構造を記述する。

4. 研究成果

本研究が目指したものは、「海を越える語り」の理論化および著作執筆；海外発信および研究の集大成となるイベント(複数言語による朗読会)の企画である。

については、ジェームズ、ハーンそれぞれ個別に研究発表および論文発表をすることができた。異文化間を繋ぐ語りという概念を「海を越える語り」として具体的には、たとえ話や、冒険談、幽霊談、旅行記などの言説における、ゴーストリーな語りの方を整理し、記述することである。ジェームズもハーンもリアリズム時代の作家と位置づけられているが、目に見えるもの写実したわけではなく、彼らの語りには想像的、寓意的要素が認められる。さらにその寓意性に、異文化異言語の混淆する社会へと向けられたグローバル化する時代が要請するトランスナショナリティの要素が重ねられると読むことができる。各論文ではそれぞれの作家の特徴をさらに彼らの生きたアメ

リカ帝国主義時代の「語り」の特徴でもあるとして探った。研究成果の一部は英文で発表し、海外に発信した。残念ながら、ジェームズとハーンを比較検討して一冊の著書にまとめるというところまで研究を進めることができなかったが、さらに広義の「翻訳」という概念を〈海を超える語り〉に組み込み、境界を越境する語りの特徴について調査研究を継続していく所存である。

〈海を超える語り〉とは、他者、すなわち異文化圏の見知らぬ読者へ発せられた語りであり、共有する歴史や文化のない他者にどのように共感を伝えるのかという問題を孕む語りである。本研究者は米国アメリカ文学（2016年）、ヘンリー・ジェームズ国際学会（2016、2017年）に参加、研究発表および海外の研究者との意見交換を行った。また海外の研究者を招聘し講演および朗読会を開催、学生・院生、地域へのフィードバックに寄与した。2016年にはノース・カロライナ大学のジェイン・スレイルキル氏、2017年にはコルゲート大学のセアラ・ワイダ氏を招聘、交流を持った。また神戸市外国語大学客員教授で翻訳家の柴田元幸氏の講演会および朗読会を大学の事業として企画実行し、翻訳という観点からも境界を越境する語りについて考える機会を得た。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

NABAE Hitomi, "Modern Allegory in Wartime: Men in Lafcadio Hearn's Japanese Stories" *Gaidai Ronso*. Kobe City University of Foreign Studies. Vol. 69. No. 1. 2018, pp.47-65. <https://bit.ly/31q4DYY>、査読有。

NABAE Hitomi, "The Absent and Disinterested Other: Henry James's Experimental First Person Narrative in 'The Ghostly Rental' (1876)," *Henry James: the Writer's Museum. The Litteraria Copernicana*. Vol. 21, No. 1, 2017, pp. 21-35. DOI: <http://dx.doi.org/10.12775/LC.2017.002>、査読有。

NABAE Hitomi, "Experiment and Experience: Trans-Cultural and Trans-national Legacies of Black Mountain College. An Interview with Douglas Kinsey," *Forum: Black Mountain College: Revisiting Projections, 60 Years After. Rivista di Studi Americani*. Vol. 28. 2017, pp. 140-152. http://aisna.net/sites/default/files/rsa/rsa28/28_Forum.pdf、査読有。

難波江仁美、「ことば、記憶、Creolization」:前衛小説として読むラフカディオ・ハーンの『チータ』、『ヘルン研究』、第2号、2017年、27-30頁。DOI: <https://bit.ly/2ZiFMEC>、査読無。

〔学会発表〕(計 11 件)

難波江仁美、「What James Knew about Anger in American Women ヘンリー・ジェームズ初期作品を中心に」日本ナサニエル・ホーソン協会関西支部研究会3月例会特別講演、2019年。

NABAE Hitomi, "Experiment and Experience: Black Mountain College and Japanese Mingei Undo (Folk-Art Movement). Forum: Black Mountain College: Removing Barriers, Exo/Echoing the World. 24th AISNA Biennial Conference: the US and the World We Inhabit. Milano. 2017.

Panel: "Beyond Translation: Japanese Henry James Studies Today." KITAHARA Taeko, ISHIZUKA Noriko, NABAE Hitomi, NAKAGAWA Yuko, SAITO Sonoko, and. "Jamesian Cultural Anxiety in the East and in the West: the 7th International Conference of the Henry James Society. 2017.

Panel: Asian Anxiety: Roundtable. "The Age of Anxiety and Henry James Studies in Japan" "Jamesian Cultural Anxiety in the East and in the West." Choon-hee KIM, NABAE Hitomi, DAI May, The 7th International Conference of the Henry James

Society. 2017.

NABAE Hitomi. " Ideas for a Museum: Traveling Curios and Preservation of Culture in Late Henry James. " Panel: " If I were to go to Japan " : Theory and Practice of Travel in Henry James and Beyond. The 28th Annual Meeting of American Literature Association. 2017.

難波江仁美、「ことば、記憶、“Creolization” –前衛小説として読むラフカディオ・ハーンの『チ-タ』」ラフカディオ・ハーン研究国際シンポジウム富山大学ヘルン研究主催・学長裁量経費採択事業・科学研究費補助金挑戦的萌芽事業 2017年。

難波江仁美、「ラフカディオ・ハーンのアメリカ-リタラー-ジャーナリズムへの挑戦」日本比較文学会第52回関西大会「シンポジウム：ハーン研究の新展開～ヘルン文庫の活用法から」、2016年。

NABAE Hitomi, " In Defence of Culture: Henry James ' s Legacy beyond " Within the Rim. " The Third International Conference of the European Society of Jamesian Studies. 2016.

難波江仁美、「ラフカディオ・ハーン(1850-1904)のアメリカ-色・音・味覚のジャーナリズム」2016年度第1回講演会、富山大学ヘルン研究会主催。2016年。

難波江仁美、「ヘンリー・ジェームズと “Brother Arts” –1890年代の挿絵入り雑誌小説をめぐる」シンポジウム「ヘンリー・ジェームズと絵画」(難波江仁美、中井誠一、砂川典子) 第6回ヘンリー・ジェームズ研究会、2016。

NABAE Hitomi, " Commemorating the Absent and Disinterested Other in ' The Ghostly Rental ' (1876). " The 2016 International Henry James Conference. 2016.

〔図書〕(計 3 件)

NABAE Hitomi, *Henry James ' s Travel*. Ed. Mirosława Buchholtz. Routledge, 2019. pp. 82-100.

難波江仁美、『言葉と言う謎 英米文学・文化のアポリア』御輿哲也、新野緑、吉川朗子編、大阪教育図書、2016年。361-376頁。

難波江仁美、『ヘンリー・ジェームズ、いま 没後一〇〇年記念論集』里美繁美、中村善雄、難波江仁美編、英宝社、2016年、257-275頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。